

**対馬暖流の北上流量は極めて少なく、流路は不明瞭。
石狩沖に暖水塊が分布。
表層水温は、平年並みからやや低めだが、
今後は気温の影響で急激に低下する可能性がある。**

2020年2月に実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

瀬棚～石狩沖での対馬暖流の北上流量は平年よりも極めて少なく、2019年12月に続いて対馬暖流の勢力が弱い状況です（図1c）。流路は流量が少ないため、非常に不明瞭です。石狩湾の沖側には時計回りの暖水塊が分布しています。暖水塊の分布している海域以外では100m深の水温が3～4℃程度と平年よりも1～2℃低くなっています。

表層水温は、暖流の勢力が弱いため、積丹半島以北を中心に平年よりも1℃程度低めとなっています（図1a、b）。また余市前浜水温は、1月上旬までは平年より「かなり低い」水温でしたが、下旬以降は、気温がかなり高めで推移したため「やや高い」水温となり、その後は平年並みで推移しています（図2）。

現在表層水温は平年並みかやや低い状態ですが、対馬暖流の勢力は非常に弱く、表層以外は平年よりも冷たいため、今後気温等の影響により急激に低下する恐れもあります。今後の前浜水温の変化には、ご注意ください。

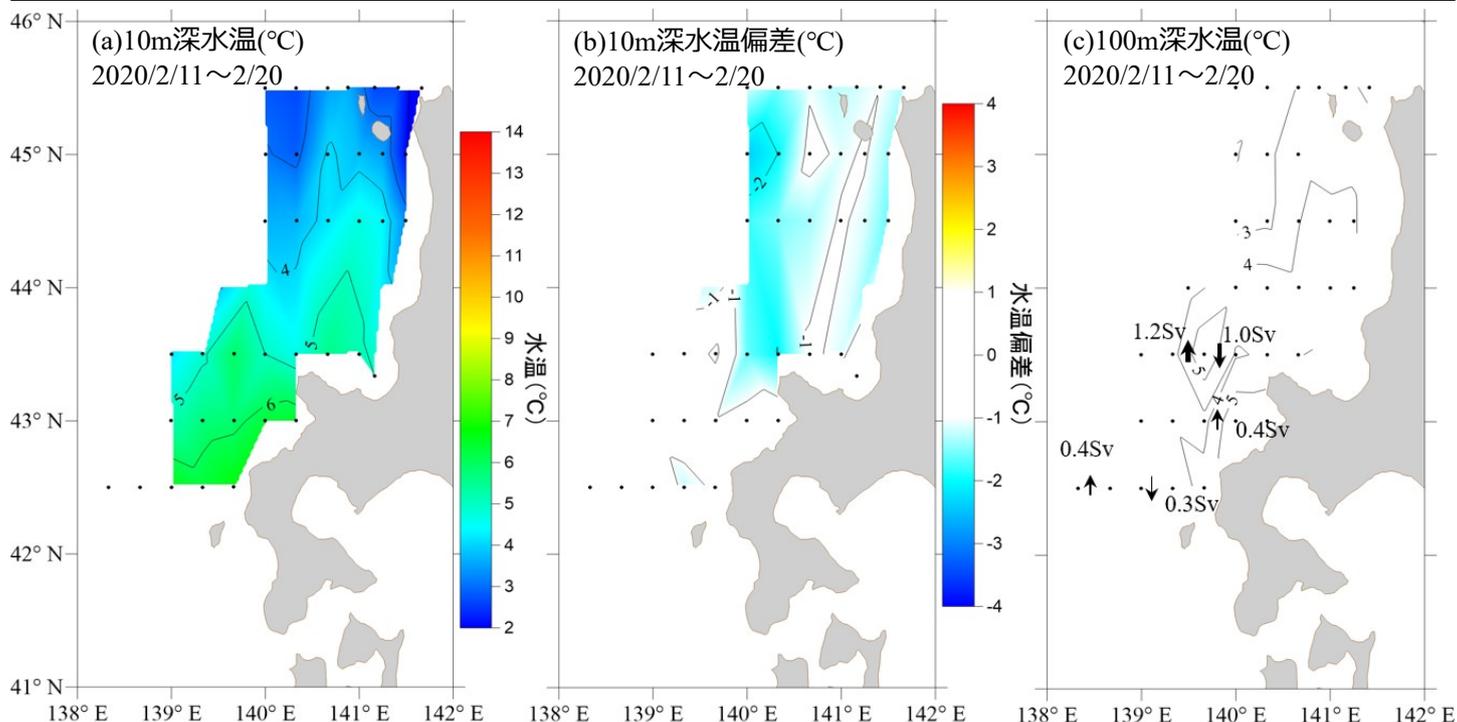


図1 2020年2月における (a) 10m層水温、(b) 10m層水温偏差（30年平均値（1989～2018年）からの差）の分布、(c) 100m層水温分布と対馬暖流の流路（500db基準の地衡流より）（1Sv=10⁶m³/s）

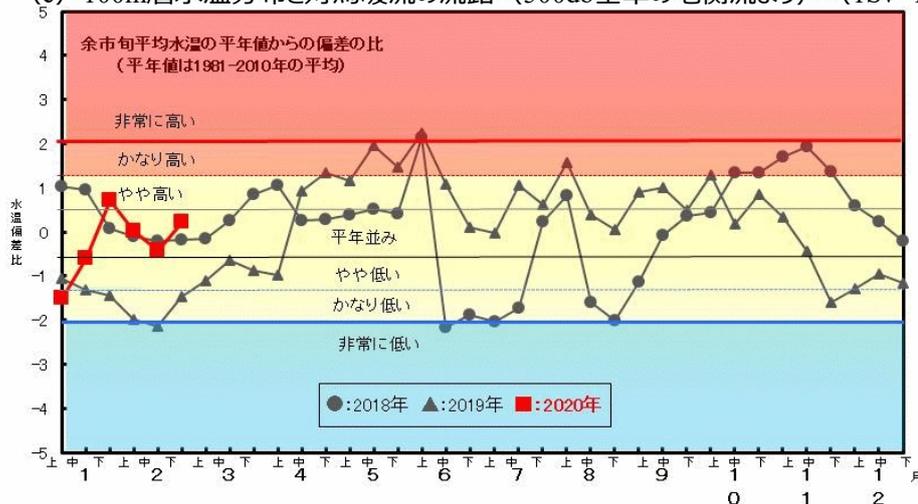


図2 余市前浜旬別水温の平年偏差比

最新版は
<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/suion/index.html>
もしくは「余市前浜水温」で検索